

教職実践演習（中・高）		演習	教授 平沢 信康 教授 松下 晋 准教授 堤 ひろゆき	
科目カテゴリー	教職科目	科目ナンバリング	25200402	

1. 授業のねらい・概要

本学の教職課程で3年半学んだことの確認と復習を図るとともに、「教育実習」での経験等をもとに、「教科内容を指導する力」、「生徒理解や学級経営に資する力」、「社会性を構築したり人間関係を形成したりする力」に加えて ICT の活用能力の修得に磨きをかける。

これらを通じて、教員に求められる専門的知識や指導技術、教員としての資質能力が修得できたかを総合的に点検するとともに、教員を目指すうえで今後の課題を明確化する。

2. 授業の進め方

教育実習の体験発表をはじめ、グループ・ディスカッション、模擬授業やロールプレイング、事例研究、ニュース記事調べ等を組み合わせ、教育現場が有する課題に対し、より実践的な問題解決能力を身につけることを目指す。

また、受講者の各自が抱えている課題意識を積極的に表現し、それを分かち合える機会をも数多く設定したい。

演習ゆえ、講義形式は取らず、原則的に対面型・参加型授業とする。

3. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の趣意と計画）（堤）	8. 教育実習先の紹介と課題抽出（平沢）
2. 学校組織における社会性や人間関係形成能力に関する確認（堤）	9. 教職をめぐる関係法規や歴史の再確認（平沢）
3. 家庭・地域とともに築く社会性や人間関係形成能力に関する確認（堤）	10. 教職に関する新聞報道調べ・時事 News 検索（平沢）
4. 社会性の構築や人間関係形成力の獲得へ向けた学修成果の振り返り（堤）	11. 模擬授業場面を通じた教科内容の指導力の確認（松下）
5. 教員に必要とされる社会性や人間関係形成能力のあり方（堤）	12. 生徒一人ひとりの理解と実態把握（松下）
6. 教職課程における学修の意義と振り返り（平沢）	13. 生徒一人ひとりと学級集団との関わりあいを生かした学級経営（松下）
7. 教育実習の振り返り（平沢）	14. 生徒理解と学級経営上の課題とその対応（松下）
	15. 個と集団の関わりあいを生かした生徒理解と学級経営のあり方（松下）

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・過去に配布された教材資料および参考文献の復習（30分程度）。
- ・体験発表や模擬授業にむけての準備（1時間程度）。
- ・パワーポイントソフトの使い方・操作方法に習熟しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

体験発表や模擬授業の際には、直後に担当教員から講評を与える。

6. 授業における学修の到達目標

受講者の履修履歴をふまえ、教員に必要とされる知識、技能、資質能力を修得しえたことを確認する。本学の教員養成の理念に基づき、教員として相応しい人間性を涵養するとともに、生徒、教員、地域の関係者や保護者との人間関係形成力、集団における協調性と統率力といった資質能力の育成を図る。

7. 成績評価の方法・基準

体験発表，グループ・ディスカッション，ロールプレイング，補完指導等の内容をもとに，教員としての基礎的な資質能力の定着を確認し，単位認定を行う。また ICT の利活用能力も加味して総合的に評価する。

レポート（20％），発表内容と態度（30％），取り組みの積極性・授業への貢献度（50％）

8. テキスト・参考文献

特に指定せず，必要に応じて適宜指示する（教職科目で使用したテキストや学習指導要領の冊子など）。

なお，教育実習関係資料や実践記録を持参すること。

9. 受講上の留意事項

本科目は，教員に必要とされる資質能力が身についているかどうかを最終的に確認する時間である。教職課程の総仕上げの授業であるため，真摯な姿勢で積極的に取り組むことが求められる。当然ながら，全回出席を原則とし，遅刻や早退は欠席と見なすことがあるので，自戒してほしい。特に発表前は体調を整え，教師に相応しい姿勢・態度・声量・言葉遣い・話し方ができるよう，心掛けられたい。

PowerPoint 作品に挿入・紹介するため，教育実習先で撮影した（校舎や授業風景の）写真を用意しておいてほしい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。